



2022年5月17日  
南富良野町  
公益財団法人イオン環境財団

## 5月21日（土）第3回「北海道 南富良野町植樹」を実施 森の再生を目指して地域の皆さまと2,000本を植樹

北海道南富良野町（町長 高橋秀樹）と公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也  
イオン株式会社 名誉会長相談役）は、5月21日（土）、第3回「北海道 南富良野町  
植樹」を実施します。

北海道のほぼ中央に位置する南富良野町は、総面積の約9割が森林地帯の自然豊かな  
地域です。2016年の台風10号に伴う大雨による空知川の河川増水で、甚大な浸水  
被害が発生しました。

当財団と町は、災害から地域を守るとともに緑あふれる森の再生を目指し、2019年  
「南富良野町におけるイオンの森づくり協定」を締結し3年計画で2haに5,300本  
の植樹を計画しました。これまでに、のべ450名が5,000本を植樹しています。

第3回となる今回は、200名の地域ボランティアの皆さまとともに、地域に自生する  
ナナカマドやカラマツ等、10種2,000本を植樹します。

両者は今後も、豊かな自然と人々の暮らしを守るため、植樹活動をはじめとする環境  
保全活動に積極的に取り組んでまいります。

### 記

日 時	2022年5月21日（土） 11:00～12:30		
本 数	2,000本		
参加者	200名		
面 積	1ha		
樹 種	ナナカマド・カラマツ・アカエゾ・トドマツ・ミズナラ・イタヤカエデ サクラ・カツラ・ハルニレ・ヤチダモ 計10種		
主 催	北海道南富良野町・公益財団法人イオン環境財団		
協 力	南富良野町森林組合・イオン北海道株式会社		
出席者	北海道	副知事	土屋 俊亮 様
（予定）	南富良野町森林組合	代表理事組合長	鹿野 重博 様
	北海道南富良野町	町長	高橋 秀樹
	イオン北海道株式会社	社長	青柳 英樹

## ご参考

### 【公益財団法人イオン環境財団】

当財団は、1990年「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、岡田卓也（イオン㈱名誉会長相談役）により、日本で初めて地球環境をテーマにした企業単独の財団法人として設立されました。

設立以来、国内外の多様なステークホルダーの皆さまと連携し、世界各地での植樹を主な事業として、環境活動に積極的に取り組む非営利団体への助成や、環境人材の育成を目指した環境教育など、様々な活動を実施してきました。

今後は、持続可能な地域の実現を目的に、各事業をさらに進化させ、地域の皆さまと協働して森づくりに加え、地域づくり、人づくりにも取り組み、新たな「イオンの里山」の構築を目指します。

＜イオン環境財団ホームページ <https://www.aeon.info/ef/>>

### 【植樹活動】

国内外の地域行政と協力し、自然災害や伐採などで荒廃した森の再生を目的に、アジアを中心に世界各地のボランティアの皆さまとともに植樹活動を継続実施してまいりました。イオン全体の植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計約1,241万本（2022年2月末時点）となります。

### 【北海道での活動】

#### ・2002年～2006年 知床植樹

北海道斜里郡斜里町は1977年、乱開発の危機に晒されていた知床の開拓跡地を買い取り、植樹して緑を回復させることを目標に「しれとこ100平方メートル運動」を全国に呼びかけてきました。当財団はこの運動に賛同し、2002年から2006年までの5年間で約1,610名のボランティアの皆さまと累計9,000本を植樹しました。

#### ・2007年～2011年 支笏湖植樹

2004年の台風18号による樽前山麓の森林被害は、道内最大規模(当時)となりました。この地を命はぐくむ森に再生すべく、5年間で約5,203名の皆さまと累計39,600本を植樹しました。また2008年6月には、G8北海道洞爺湖サミットと並行して開催されたユースイベント「J8サミット」に参加する子どもたちと「イオンチアーズクラブ」のメンバーの合計約100名が植樹活動を実施しました。

#### ・2012年～2014年 むかわ町植樹

森林が約8割を占めるむかわ町は、豊かな自然を利用した農林水産業が主な産業であり、森・川・海のつながりを活かしたまちづくりを目指しています。近年、山間部の森林荒廃が進んでいたことから、「魚つきの森を守ろう」というコンセプトのもと、森を守ることで川を守り、そして海を守るべく3年間で約1,735名のボランティアの皆さまと累計16,000本を植樹しました。

#### ・2015年～2017年 厚真町植樹

厚真町は、町内の7割に森林が広がる緑豊かな町であり、中央部を流れる厚真川を中心に美しい田園風景が広がっています。ハスカップの栽培面積は日本一を誇ります。厚真町と当財団は、産業や暮らしを支える森の再生を目指して、2015年より3年計画で植樹活動を行いました。3年間で約1,750名のボランティアの皆さまと累計17,000本を植樹しました。

#### ・2021年 厚真町さくら植樹

当財団は、設立30周年の記念事業として、各地で「さくらの名所づくり」に取り組んでいます。2018年に発生した胆振東部地震による土砂崩れで、大きな被害を受けた厚真町吉野地区に、この地の復興再生を願い、現地のボランティアの皆さまと30本のさくらを植樹しました。